

大原三山 金毘羅山 翠黛山

【日程】 2015年1月24日(土) [日帰り]

【メンバー】 10人

【天候】 晴れ時々曇り

【アクセス】 電車、バス利用 京都市バス「戸寺」バス停より出発 帰りは「大原」バス停で解散

****コースタイム****	****活動記録****
9:43 戸寺 出発	紅葉真っ盛りのおきに登った、大原三山を全制覇するために、残りの二山に挑戦しに来た。本当は、雪山ハイクを期待していたのだが、ここのところの温かい雨のせいですっかり雪は解けてしまって、早春ハイクのよう。 紅葉の頃は、バスに乗るのも一苦労なくらいの人出だったが、この真冬では訪れる人も少なく、大原の里はひっそりと静まり返っていた。それでも、冬枯れの景色を楽しみながら、遠い昔、建礼門院がこの山道を登っていたのかと思うと何だか不思議な気持ちになる。人の命は短いけれど、自然はそのまま、悠久の時を経ても変わらず私たちを迎えてくれる。感謝と、畏敬の念をもって登る山だと感じた。
10:54 ロッククライミングゲレンデ	
11:26 金毘羅山	
12:02 翠黛山 (昼食・休憩)	
13:21 寂光院	
13:45 大原 バス停 (解散)	

【写真】



1. 「大原」行のバスで、終点より3つ手前の「戸寺」バス停で下車。美味しそうなお餅をおやつに購入しました。トイレもあります。



2. 準備運動を終え、登山口に向けて出発



3. 最初は、のどかな田園地帯を通ります。



4. 遠くに、めざす大原三山が見えてきました。



5. 地図で現在位置と、今日のコースを確認



6. まずは、江文峠から、江文神社へ



7. あれ、さっき買ったお餅、もう、我慢できずに食べた人が...



8. 登山口に、たくさんの石仏が祀られていました。登山の安全をお願いしました。



9. 登いよいよ、最初の急登が始まりました。ここから30分ほど、急登が続きます。



10. 金毘羅新宮社につきました。まだ、金毘羅山の頂上まで半分かくらい。



11. 途中に、展望岩とロッククライミングゲレンデがあるので向かいます。



12. 荷物をデポしてクライミングゲレンデを探索しに行きます。



13. 20~30m位でしょうか。確保用にたくさんのボルトが撃ち込まれていました。



14. 展望岩からの眺めは、なかなかのものです。



15. 分岐まで戻って、金毘羅山をめざします。



16. 途中に鳥居出現。



17. まだ、頂上ではありませんが、金毘羅神社とありました。



18. 社の横から、眺望が広がります。



19. 頂上付近に、もとの金毘羅神社の跡と思われる遺構がありました。ここから、大岩の横をすり抜けて、いったん鞍部に降り、さらにまた登ったところが山頂です。



20. 三角点にタッチ。



21. 残念ながら、山頂には展望がありません。



22. 金毘羅山は、雨乞いの山だったそうです。



23. もとの分岐に戻ってきました。この大岩の向こうのピークが山頂です。



24. 苦勞して大岩をトラバースして山頂に向かったのですが、ちゃんと巻き道がありました。道標を見逃していました。



25. 次の翠黛山までの道のりを確認します。



26. いきなりの急降下。



27. どんどん下って、再び登り返して、30分ほどで翠黛山に到着。

ここは、昔、寂光院で隠遁生活をしていた、建礼門院がわざわざ花を摘みに来た場所だとか。寂光院からはけっこうな急登です。建礼門院って、健脚だったんだ…



28. ここも眺望はありませんでしたが、昼食休憩をとりました。



29. 昼食を終えて、寂光院までひたすら下降。



30. 途中で、大原の里を一望できる絶景ポイントが。建礼門院もこの景色を見たのかな…



31. 木をつかみながらの急下降が30分ほど続きます。



32. やっと、県道が見えたと思ったら、鹿よけの柵が…柵をくぐります。最後の人は、閉めておいてね。



33. 古いお墓の前につきました。



34. とても立派なご神木が祀られていました。



35. ご神木の前の苔むした階段を下ります。



36. あのお墓は、建礼門院の侍女たちのお墓だったようです。



37. 寂光院の前まで戻ってきました。



38. のどかな大原の里を通過して、バス停に向かいます。



39. 途中で、前回登った焼杉山への登山口を発見。こんなところからも登れたようです。これで、大原三山を制することができました。